

「高等学校 現代社会」シラバス

科目	現代社会	単位	3	学年	1	科目担当	宮城富美子 山内優也
使用教科書	「高等学校 現代社会」(第一学習社)			副教材等	「最新現代社会資料集」(第一学習社)		

学習の到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

週	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4 5 月	第1編 私たちの生きる社会 ①地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題について、よりよい社会を築くために解決しなければならない問題として考える。 地球環境問題が国際的な問題となっていることや、その解決に向けての取り組みについて理解する。 熱帯林伐採の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		②資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有限性について理解を深め、石油に代わる資源には何があるか、資源を有効に利用するためにどのようなしなければならないかを考える。 エネルギー政策を見直すとともに、新エネルギーの現状と将来について考え、毎日の生活を見直し、省エネルギーに努めることが重要であることを理解する。 資源・エネルギー問題への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		③科学技術の発達と生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達は、社会や生活をどのように変えてきたかを考え、理解する。 医療の発達により、人類がはじめて直面する問題が生じていることを、具体的事例をあげて考察する。 生命倫理をめぐる問題について、どのようなものがあるかを理解し、それらについての知識を身につける。 生命にかかわる課題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		④高度情報社会と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> 高度情報社会とは何かを理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について考える。 情報の活用や情報にかかわる諸課題を考察させることを通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 現代に生きる青年 ①青年期の意義と自己形成の課題 ②現代社会における青年の生き方 ③伝統や文化と私たちの生活	<ul style="list-style-type: none"> 人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、青年期の心理の特徴について理解し、一人前の人間として自立するためには何をしたらよいかを考える。 青年期の意義や青年期の心理について、それらがどのようなものかを理解し、自分自身の問題として考える。 社会への参加について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 なぜ生きがいを求めようとするのか、人生における職業の意味、社会活動の意義について考える。 伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査 	

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価				評価方法
				a	b	c	d	
1	6	第2章 個人の尊重と法の支配 ①民主政治における個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界のおもな政治体制	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。 世界のおもな政治体制について、真の民主政治の実現と関連させて考察する。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	6	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と安全保障 ③基本的人権の保障と新しい人権	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 日本国憲法の平和主義の特色を理解するとともに、平和主義と日本の安全保障について、さまざまな情報手段を活用し、レポートをまとめる。 日本国憲法の平和主義の特色と自衛隊、日本の安全保障については、さまざまな立場からの意見があることを理解する。 自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場にたって考察する。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	7	④民主権と議会制民主主義 ⑤内閣と行政の民主化 ⑥裁判所と人権保障	<ul style="list-style-type: none"> 国会の地位と構成、権限について理解する。 国会の地位と構成について、インターネットなどの情報手段を活用して資料を収集し、レポートをまとめる。 議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について理解する。 議院内閣制のしくみ、裁判所の役割や裁判制度について、インターネットなどの情報手段を活用して資料を収集し、レポートをまとめる。 	○		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
2	9	⑦地方自治と住民の福祉 ⑧世論形成と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治に住民はどのような権利をもっているか、また、地方自治のもつ課題について、自分自身の問題として具体的に考察する。 地方自治に住民はどのような権利をもっているか、地方自治のもつ課題について、自分自身の問題として理解し、その知識を身につけている。 政党の役割、選挙のしくみ、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、調査する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	9	第4章 国際政治の動向と日本の役割 ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③今日の国際社会 ④核兵器の廃絶と国際平和 ⑤国境と領土問題	<ul style="list-style-type: none"> 国際法の意義と役割について、多面的に考察し、理解する。 勢力均衡と集団安全保障体制の違いについて考え、国連の役割と課題について理解する。 国際連合の役割と課題について、インターネットなどの情報手段を用いて調査し、それらをもとにレポートをまとめる。 第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。 核兵器を廃絶するには何が必要かを考え、核兵器の開発・拡散の状況、廃絶するためのさまざまな取り組みについて、具体的事例をあげて多角的に考察する。 核兵器の問題についての知識を身につけ、それを廃絶するために何をしなければならないかを理解する。 国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。 国境と領土問題、特に日本の領土問題についての知識を身につける。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	10	⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦外交政策と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> なぜ人種や民族の違いにより争うのかを主体的に考え、人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 人種・民族紛争の実態、難民問題に関する資料について、さまざまな情報手段を用いて収集し、それらをもとに整理・発表する。 国際社会における日本の役割や、国際社会の一員として私たちは何をすべきかを考える。 国際社会の一員として何をすべきかを理解する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	10	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済社会と経済体制 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④経済成長と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解する。 ・企業・家計・政府はどのような活動をしているか、企業の社会的責任について理解する。 ・企業がどのような活動をしているのか、株式会社の特徴について調査し、まとめる。 ・市場経済のしくみについて理解する。 ・価格機構のはたらきについて理解する。 ・国民所得について、教科書に掲載されている図版を適切に使用し、理解する。 ・景気変動について理解する。 ・経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	11	⑤政府の経済的役割と租税の意義 ⑥金融機関のはたらき ⑦戦後の日本経済の動き ⑧産業構造の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察し、主体的に考える。 ・資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解する。 ・日本の高度経済成長やバブル経済の要因について、理解する。 ・平成不況に対する政策を調査し、日本経済の課題について多角的に考察する。 ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	12	⑨雇用と労働問題 ⑩公害の防止と環境保全 ⑪消費者保護と契約 ⑫社会保障と国民福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者が憲法や法律で守られている理由を考え、雇用事情の変化と労働条件や労働環境を理解する。 ・雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 ・日本の公害問題について理解し、公害問題と公害に対する国や企業の対応、公害を防止し環境を保全するための方策について考える。 ・消費者問題について、自分自身の問題として具体的事例をあげて考察する。 ・消費者主権とは何かについて考え、企業が消費者に負っている責任、消費者を保護するために国はどのような対策をとっているのかを理解する。 ・社会保障の意義を理解し、現代の社会保障の課題について考察する。 ・消費者問題、日本の社会保障について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、調査した内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
3	1	第6章 国際経済の動向と日本の役割 ①国際経済のしくみと貿易の拡大 ②国際経済の動向 ③発展途上国の経済と南北問題 ④国際協調と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考える。 ・円高・円安のしくみについて、身近な事例をもとにレポートを作成するなど、適切に表現する。 ・日本の貿易やアメリカ、アジアなどの貿易について理解し、貿易の拡大とそれにもなう貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 ・地域的経済統合をはかる動きが見られることを理解しそれによって何がもたらせるかを理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国のかかえている問題について理解する。 ・発展途上国の人口問題や食料問題について、情報を収集し、調査した内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。 ・国際協力のあり方、国際経済の中での日本の役割について自分自身の問題として考える。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
3	2	第7章 現代に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的なものの考え方 ③西洋の自然観と人間観 ④私たちの課題	<ul style="list-style-type: none"> 哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について、具体的事例をあげて考察する。 人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社會を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため、図版や原典資料を適切に使用する。 平等な社會の実現には、偏見を取りのぞき、主体的に努力することが求められていることを理解する。 差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	3	第3編 ともに生きる社会をめざして ケーススタディ① 税と社会 ケーススタディ② 発展途上国の貧困問題の解決をめざして ケーススタディ③ 人口問題と私たちの未来	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、1枚の給与明細から税について考察したり、フェアトレードを通して貧困問題を考察したり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 調べた内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。 	○	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査

地歴科授業シラバス

教科	科目名	単位数	学年	学級	担当			
地歴公民科	世界史 B	4	3	3年1組～8組	上原欣信	天久奈美	仲宗根義紀	上原惇乃

検印	校長		教頭		教頭	
----	----	--	----	--	----	--

1 学習目標

学習の到達目標	①世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。 ②世界史の大きな枠組みと流れを、我が国を含む諸地域世界の歴史と関連付けながら理解させる。 ③主題学習を通して客観的で公正なものを見方を育成するとともに、広い視野から歴史を考察させる。
使用教科書・副読本等	帝国書院「新詳 世界史 B」 浜島書店「ニューステージ 世界史詳覧」

2. 学習計画

月	単元名		学習項目	学習内容	評価の観点	考查範囲
4月	第1編 序章 文明以前の人類	1	1,人類の登場	○人類の進化の過程を、語族なども含め学習する。	1.2.3.4	1学期中間 考查
		1	2,地域文化	○新石器時代の到来、農耕と牧畜の始まりと農耕文化の伝播を理解する。		
	第1章 オリエント世界と 東地中海世界	2	1,オリエント	○メソポタミア文明・エジプト文明の展開とそれらの文化の特徴を理解する。	1.2.3.4	
		1	2,オリエント	○アッシリアとアケメネス朝の支配の特徴を理解する。		
		3	3,ギリシア	○クレタ文明とミケーネ文明の成立、古代ギリシアのポリス社会の特徴、民主政発展や民主政の特徴、古代ギリシア文明の特質を理解する。		
		1	4,ヘレニズム世界	○ヘレニズム世界の成立と、文明の特徴を理解する。		
5月	第2章 地中海世界と西ア ジア	2	1,都市国家から帝国へ	○ローマの共和政の特徴と、支配の拡大に伴う社会の変化について理解する。	1.2.3.4	
		2	2,ローマ帝国の繁栄	○「ローマの平和」時代のローマ社会やローマ文明の特徴を理解する。		
		2	3,古代の社会と地中海	○専制君主政期のローマの政治体制・社会を理解する。 ○キリスト教の拡大を、ローマ帝国と関連で理解する		
		1	4 地中海と西アジア	○東ローマ帝国・パルティア・ササン朝の統治、ペルシアの特質を理解する。		
	第3章 南アジア世界	3	1,北インド世界の展開	○インダス文明の特徴、古代インドの社会・宗教体系の成立を理解する。	1.2.3.4	
		2	2 ヒンドゥー世界	○インド洋交易の発展とインド世界、ヒンドゥー教の成立、グプタ朝以降の過程を理解する。		
	第4章 東アジア世界	3	1 東アジア	○黄河文明、殷や周の国家と政治、春秋・戦国時代、諸思想を理解する。	1.2.3.4	
		2	2 中華帝国	○秦漢における中央集権的専制国家の形成を理解する。		
		2	3 東方の世界帝国	○三国時代から隋の統一に至る過程、諸制度の整備、文化の特徴を理解する。 ○同時期の朝鮮半島や日本の動向を学ぶ。		
	第5章 内陸ユー ラシア世界	2	1 騎馬遊牧民国家の 興亡	○スキタイや匈奴など騎馬遊牧民のユーラシア世界での役割を理解する。 ○シルクロードを舞台とした人や交流を学習する。	1.2.3.4	
1		2 草原地帯	○中央アジアでのトルコ系民族の活躍とイスラームの拡大状況を理解する。			
6月	第6章 東南アジア世界	2	1 海の道	○東南アジア世界の海域世界としての特徴を理解する。	1.2.3.4	
		1	2,東南アジア	○隋唐帝国やイスラーム世界の都市と交易と、東南アジア諸国家の形成を関連づける。		
	第7章 古アメリ カ、諸地域世界	2		○メソアメリカ文明やアンデス文明の成立、地中海世界の要衝であったイスタンブルの変遷について、長期的な視点から理解する。	1.2.3.4	
	第2編 結びあう 地域世界 第8章 イスラーム 世界の形成	2	1 イスラーム世界	○イスラーム教成立の経緯と特徴、ウマイヤ朝やアッバース朝の成立、統治を理解する。	1.2.3.4	
		1	2 イスラーム世界の 発展	○諸民族へのイスラーム教の普及に伴うイスラーム世界の拡大、地方政権の成立と発展について理解する。		
		1	3 イスラーム文明	○イスラーム文明の特質とイスラーム文化の発展を、周辺地域との関係を踏まえ理解する。		
	第9章 ヨーロッパ世界の 形成	ヨーロッパ世界の 形成	1	1,東ヨーロッパ世界	○ビザンツ帝国の動向やスラヴ人の諸国家の形成について学習する。	1.2.3.4
			2	2,西ヨーロッパ世界	○フランク王国とローマ教会の提携によるヨーロッパ世界形成を理解する。	
			2	3 封建社会と都市	○ノルマン人の活動とヨーロッパへの影響を理解する。 ○封建社会の形成とその特徴、商業や都市の発展、都市生活を理解する。	
1			4,カトリックと十字軍	○教皇権の拡大と、十字軍の背景や影響について、西欧世界の膨張という中で理解する。		
1			5,中世の文化	○中世西ヨーロッパ文化の特徴について理解する。		
2			6,中世世界	○封建社会の動揺、教皇の衰退、英仏や独・伊・北欧、イベリア半島の動向を理解する。		
1			7,ルネサンス	○ルネサンスの背景、文芸の発展を、時代状況と関連させ理解する。		
7月					1学期末考 査	

9月	第10章 東アジア世界の変容	2	1,唐の崩壊	○唐滅亡から宋の成立までの東アジアの変動を理解する。	1.2.3.4	2学期中間 考査
		1	2,宋代の展開	○宋代における社会の変化と都市経済や当時の文化の特色を理解する。		
		1	3,モンゴル	○モンゴル人によるユーラシア制覇の過程, 体制, 東西交流を理解する。		
		2	4,元朝の成立	○元朝の統治体制, 社会や文化, 元朝と東アジア諸地域との関係を理解する。		
	第3編 一体化する世界 第11章 海域世界の発展	3	1,海域世界の成立	○南シナ海交易の発展と中国商人、インド洋交易におけるムスリム商人、地中海交易とイタリア商人の活動を中心に理解する。	1.2.3.4	
		2	2,海域世界	○東シナ海・南シナ海、インド洋海域の発展を理解する。		
		1	3 海と陸の結合—東	○東南アジアの港市国家の発展で、内陸の国家群も大きな影響を受けたことを理解する。		
		1	南アジア	○鄭和の南海遠征やマラッカ王国の繁栄について学ぶ。		
	第12章 ユーラシア諸帝国 の繁栄	1	1,中央アジア	○ティムール朝やサファヴィー朝, ウズベク人やカザフ人などの動向を学ぶ。	1.2.3.4	
		2	2,オスマン帝国	○オスマン帝国の拡大過程と統治体制や文化の特徴, 社会の変質を理解する。		
		1	3 インド	○ムガル帝国の発展と分裂, 地方勢力の台頭を理解する。		
		2	4 明と東アジア世界	○明の成立, 明代の思想と文化を理解する。		
10月	第13章 大交易時代	1	5 清と東アジア世界	○明代の日本や朝鮮など東アジアの動向を学習する。	1.2.3.4	
		2	1 海洋帝国の出現	○ヨーロッパの海外進出の背景, ポルトガルのインド洋・南シナ海・東シナ海の進出、スペインのアメリカ大陸進出と植民地経営の特徴を理解する。		
		2	2 大交易時代	○ヨーロッパのアジアやラテンアメリカへの進出, ヨーロッパ社会の変容、東南アジアや東アジア世界での交易の発展を理解する。		
		3	1,主権国家と宗教改革	○主権国家の成立, 宗教改革と対抗宗教改革の動きを, 当時の国際関係を踏まえ理解する。		
第14章 近世のヨーロッパ	4	2 オランダの繁栄と英仏	○オランダの商業覇権の確立と要因、ピューリタン革命・名誉革命、イギリス立憲王政の確立過程、フランス絶対王政の展開、三十年戦争を理解する。	1.2.3.4		
	1	3 専制国家	○プロイセンの強国化やロシア台頭の過程とその影響を理解する。			
	2	4 近世ヨーロッパ	○近世ヨーロッパの社会の変容, 科学革命, 主権国家の理論・イギリス経験論・大陸合理論・啓蒙思想などの諸思想について理解する。			
	2	1,激化する経済覇権抗争	○大西洋三角貿易と各地への影響、オランダの植民地経営への転換, 北米やインドにおける英仏の植民地抗争について理解する。			
10月	第15章 欧米における国民	2	2 工業と社会問題の発生	○産業革命の背景や展開, 産業革命によって新たに発生した諸問題、産業革命の波及によって成立した世界秩序について理解する。	2学期末考 査	
11月	国家の形成	2	3 合衆国とラテンア	○アメリカ合衆国独立の過程と独立後の領土拡大について理解する。		
		2	メリカ	○ラテンアメリカ諸国の独立, 独立後のラテンアメリカ社会の特徴や問題を理解する。		
		2	4,フランス革命とウィ	○フランス革命の背景, 革命の展開, ナポレオン戦争の展開を理解する。		
		2	ーン体制	○フランス革命により国民国家の原則が登場し, ナポレオンの大陸制圧で欧州にナショナリズムが拡大したこと,ウィーン体制の成立と性質を理解する。		
		1	5,社会変革	○ナショナリズムや社会主義思想の出現と革命運動の性質を理解する。		
		4	1 欧米世界	○ヨーロッパ諸国とアメリカの状況について理解する。		
12月	第17章 アジア諸 地域の変革運動	3	1,西アジアの改革運動	○ワッハーブ派やパン=イスラーム主義による改革、オスマン帝国の改革、カージャール朝への英露の進出, それに対する抵抗を理解する。		1.2.3.4
		2	2,植民地化と民族運動	○イギリスのインド支配の拡大と特徴, イギリス支配への抵抗、東南アジア各地の植民地化と植民地経営の特徴, 東南アジアでの民族運動を理解する。		
		2	3,清の動揺と東アジア	○アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯, 旧体制温存と変革, 近代化と排外主義、日本の勢力拡大や朝鮮半島の植民地, アジアの国際秩序を整理する。		
1月	第18章 世界戦争の時代	2	1,第一次大戦	○第一次世界大戦時の国際的な対立～大戦終結に至る経緯を理解する。		1.2.3.4
		2	2 ヴェルサイユ体制	○ロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の成立と特徴を理解する。		
		2	3 大戦後の合衆国と 欧州	○大戦後アメリカ合衆国の社会経済の繁栄と、ヨーロッパ各国の動向を, 大戦後の各国の置かれた状況を考慮しながらその違いを理解する。		

2 月		2	4 アジア・アフリカの 国家形成の動き	○西アジア地域の国家形成の動き、インドの独立運動の展開を、ヒンドゥー・ムスリム教徒 の関係、東南アジア各地の民族運動、中国の近代化の様相と国民党の中国統一を学習する。	学 年 末 考 査	
		2	5 世界恐慌と対立の 激化	○世界恐慌の背景と、ニューディール政策やブロック経済政策を理解する。 ○ナチスドイツの政権掌握と政治の特徴、日本の中国侵略を理解する。		
		2	6 第二次大戦	○大戦前の状況、枢軸国軍の勢力拡大、終戦にいたる経緯を理解する。		
	第5編 地球世界	2	1 合衆国の覇権と冷戦	○連合国の主導による戦後処理とその世界化の状況を理解する。		1.2.3.4
	第19章 国民国家体制と東 西の対立	1	2,第三勢力	○第三勢力形成の展開とその現代史的意義を理解する。		1.2.3.4
			3 戦後体制の動揺	○冷戦の緩和、社会主義陣営内での対立、アメリカの地位低下とアジア諸国の成長、南北や 南南問題、国際経済体制の転換などを理解する。		
	終章 経済のグローバル 化と新たな地域秩 序	1	4,多極化とソ連の崩壊	○1970年代からソ連の崩壊までの時代を、ヨーロッパ、アジア、イスラーム復興、アフリカ やアメリカの動向、冷戦終結など様々な側面から理解する。		1.2.3.4
			1 経済のグローバル 化	○冷戦後の世界経済のグローバル化と、ヨーロッパにおけるEUの展開、アメリカやアジア 太平洋地域における地域統合の動向について理解する。		
			2,グローバル化と国際 秩序	核軍縮、環境問題、南北問題、人権などをめぐる問題など現代の諸課題を認識する。		

3 評価の方法

(1)評価の結果を生かす

評価は自分の学習成果を確認するためになされます。不十分な点があればその後の学習につなげましょう。そのため、返却されたテストやレポートなどをしっかり見直しましょう。

(2)評価の観点

評価は学習で身につける力を次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	○世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組んでいるか。 ○世界が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身につけているか。
思考・判断・表現	○世界の歴史を、自然環境とのかかわりや地理的条件、日本の歴史と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 ○世界の歴史を、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることをふまえ、公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。
資料活用の技能	○世界の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができているか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身につけているか。
知識・理解	○古代から現代まで世界の政治、経済、社会、文化、宗教、生活の各領域での歴史的な事象を理解し、基本的な知識を身につけているか。 ○古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解しているか。

(3) 評価の時期と方法

- ①年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における「知識・理解」の習得の状況を評価し、論述問題等を通して「思考・判断・表現」の状況を評価します。
- ②不定期に課す課題探究学習の際のレポートは、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」および「資料活用の技能」の状況を評価する資料とします。
- ③学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ④自己評価、振り返りシートを評価の参考とします。

(4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して下記のように行います。

- ①定期考査の得点 70%
- ②課題の提出（新聞等）・発表・プリント・ノート提出等の評価 15%
- ③その他授業態度・出席状況等 15%の割合。

地歴科授業シラバス

教科	科目名	単位数	学年	学級	担当
地歴公民科	世界史 B	3	3	3年9組・10組	天久奈美

検印	校長		教頭		教頭	
----	----	--	----	--	----	--

1 学習目標

学習の到達目標	①世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成する。 ②世界史の大きな枠組みと流れを、我が国を含む諸地域世界の歴史と関連付けながら理解させる。 ③主題学習を通して客観的で公正なものを見方を育成するとともに、広い視野から歴史を考察させる。
使用教科書・副読本等	帝国書院「新詳 世界史 B」 浜島書店「ニューステージ 世界史詳覧」

2. 学習計画

月	単元名		学習項目	学習内容	評価の観点	考查範囲
4月	第1編 序章 文明以前の人類	1	1,人類の登場	○人類の進化の過程を、語族なども含め学習する。	1.2.3.4	1学期中間 考查
		1	2,地域文化	○新石器時代の到来、農耕と牧畜の始まりと農耕文化の伝播を理解する。		
	第1章 オリエント世界と 東地中海世界	2	1,オリエント	○メソポタミア文明・エジプト文明の展開とそれらの文化の特徴を理解する。	1.2.3.4	
		1	2,オリエント	○アッシリアとアケメネス朝の支配の特徴を理解する。		
		3	3,ギリシア	○クレタ文明とミケーネ文明の成立、古代ギリシアのポリス社会の特徴、民主政発展や民主政の特徴、古代ギリシア文明の特質を理解する。		
		1	4,ヘレニズム世界	○ヘレニズム世界の成立と、文明の特徴を理解する。		
5月	第2章 地中海世界と西ア ジア	1	1,都市国家から帝国へ	○ローマの共和政の特徴と、支配の拡大に伴う社会の変化について理解する。	1.2.3.4	
		1	2,ローマ帝国の繁栄	○「ローマの平和」時代のローマ社会やローマ文明の特徴を理解する。		
		2	3,古代の社会と地中海	○専制君主政期のローマの政治体制・社会を理解する。 ○キリスト教の拡大を、ローマ帝国と関連で理解する		
		1	4 地中海と西アジア	○東ローマ帝国・パルティア・ササン朝の統治、ペルシアの特質を理解する。		
	第3章 南アジア世界	3	1,北インド世界の展開	○インダス文明の特徴、古代インドの社会・宗教体系の成立を理解する。	1.2.3.4	
		2	2 ヒンドゥー世界	○インド洋交易の発展とインド世界、ヒンドゥー教の成立、グプタ朝以降の過程を理解する。		
	第4章 東アジア世界	3	1 東アジア	○黄河文明、殷や周の国家と政治、春秋・戦国時代、諸思想を理解する。	1.2.3.4	
		1	2 中華帝国	○秦漢における中央集権的専制国家の形成を理解する。		
		2	3 東方の世界帝国	○三国時代から隋の統一に至る過程、諸制度の整備、文化の特徴を理解する。 ○同時期の朝鮮半島や日本の動向を学ぶ。		
	第5章 内陸ユー ラシア世界	2	1 騎馬遊牧民国家の 興亡	○スキタイや匈奴など騎馬遊牧民のユーラシア世界での役割を理解する。 ○シルクロードを舞台とした人や交流を学習する。	1.2.3.4	
1		2 草原地帯	○中央アジアでのトルコ系民族の活躍とイスラームの拡大状況を理解する。			
6月	第6章 東南アジア世界	2	1 海の道	○東南アジア世界の海域世界としての特徴を理解する。	1.2.3.4	
		1	2,東南アジア	○隋唐帝国やイスラーム世界の都市と交易と、東南アジア諸国家の形成を関連づける。		
	第7章 古アメリ カ、諸地域世界	2		○メソアメリカ文明やアンデス文明の成立、地中海世界の要衝であったイスタンブルの変遷について、長期的な視点から理解する。	1.2.3.4	
	第2編 結びあう 地域世界 第8章 イスラーム 世界の形成	2	1 イスラーム世界	○イスラーム教成立の経緯と特徴、ウマイヤ朝やアッバース朝の成立、統治を理解する。	1.2.3.4	
		1	2 イスラーム世界の 発展	○諸民族へのイスラーム教の普及に伴うイスラーム世界の拡大、地方政権の成立と発展について理解する。		
		1	3 イスラーム文明	○イスラーム文明の特質とイスラーム文化の発展を、周辺地域との関係を踏まえ理解する。		
	第9章 ヨーロッパ世界の 形成	1	1,東ヨーロッパ世界	○ビザンツ帝国の動向やスラヴ人の諸国家の形成について学習する。	1.2.3.4	
		1	2,西ヨーロッパ世界	○フランク王国とローマ教会の提携によるヨーロッパ世界形成を理解する。		
	7月	形成	1	3 封建社会と都市	○ノルマン人の活動とヨーロッパへの影響を理解する。 ○封建社会の形成とその特徴、商業や都市の発展、都市生活を理解する。	1学期末考 査
			1	4,カトリックと十字軍	○教皇権の拡大と、十字軍の背景や影響について、西欧世界の膨張という中で理解する。	
1			5,中世の文化	○中世西ヨーロッパ文化の特徴について理解する。		
2			6,中世世界	○封建社会の動揺、教皇の衰退、英仏や独・伊・北欧、イベリア半島の動向を理解する。		
1			7,ルネサンス	○ルネサンスの背景、文芸の発展を、時代状況と関連させ理解する。		

9月	第10章 東アジア世界の変容	1	1,唐の崩壊	○唐滅亡から宋の成立までの東アジアの変動を理解する。	1.2.3.4	2学期中間 考査	
		1	2,宋代の展開	○宋代における社会の変化と都市経済や当時の文化の特色を理解する。			
		1	3,モンゴル	○モンゴル人によるユーラシア制覇の過程, 体制, 東西交流を理解する。			
		1	4,元朝の成立	○元朝の統治体制, 社会や文化, 元朝と東アジア諸地域との関係を理解する。			
	第3編 一体化する世界	3	1,海域世界の成立	○南シナ海交易の発展と中国商人、インド洋交易におけるムスリム商人、地中海交易とイタリア商人の活動を中心に理解する。	1.2.3.4		
		第11章 海域世界の発展	2	2,海域世界			○東シナ海・南シナ海、インド洋海域の発展を理解する。
			1	3 海と陸の結合—東 南アジア			○東南アジアの港市国家の発展で、内陸の国家群も大きな影響を受けたことを理解する。 ○鄭和の南海遠征やマラッカ王国の繁栄について学ぶ。
	第12章 ユーラシア諸帝国 の繁栄	1	1,中央アジア	○ティムール朝やサファヴィー朝, ウズベク人やカザフ人などの動向を学ぶ。	1.2.3.4		
		2	2,オスマン帝国	○オスマン帝国の拡大過程と統治体制や文化の特徴, 社会の変質を理解する。			
		1	3 インド	○ムガル帝国の発展と分裂, 地方勢力の台頭を理解する。			
	10月		1	4 明と東アジア世界	○明の成立, 明代の思想と文化を理解する。		1.2.3.4
			1		○明代の日本や朝鮮など東アジアの動向を学習する。		
3			5 清と東アジア世界	○清の建国と版図の拡大, 統治体制、清朝におけるイエズス会の活動, 清の社会経済, 文化、17世紀の日本や朝鮮など東アジアの動向を学習する。			
第13章 大交易時代	2	1 海洋帝国の出現	○ヨーロッパの海外進出の背景, ポルトガルのインド洋・南シナ海・東シナ海の進出、スペインのアメリカ大陸進出と植民地経営の特徴を理解する。	1.2.3.4			
	2	2 大交易時代	○ヨーロッパのアジアやラテンアメリカへの進出, ヨーロッパ社会の変容、東南アジアや東アジア世界での交易の発展を理解する。				
第14章 近世のヨーロッパ	1	1,主権国家と宗教改革	○主権国家の成立, 宗教改革と対抗宗教改革の動きを, 当時の国際関係を踏まえ理解する。	1.2.3.4			
	4	2 オランダの繁栄と 英仏	○オランダの商業覇権の確立と要因、ピューリタン革命・名誉革命、イギリス立憲王政の確立過程、フランス絶対王政の展開、三十年戦争を理解する。				
	1	3 専制国家	○プロイセンの強国化やロシア台頭の過程とその影響を理解する。				
	1	4 近世ヨーロッパ	○近世ヨーロッパの社会の変容, 科学革命, 主権国家の理論・イギリス経験論・大陸合理論・啓蒙思想などの諸思想について理解する。				
10月	第15章 欧米における国民	2	1,激化する経済覇権抗 争	○大西洋三角貿易と各地への影響、オランダの植民地経営への転換, 北米やインドにおける英仏の植民地抗争について理解する。	1.2.3.4	2学期末考 査	
11月	国家の形成	2	2 工業と社会問題の 発生	○産業革命の背景や展開, 産業革命によって新たに発生した諸問題、産業革命の波及によって成立した世界秩序について理解する。	1.2.3.4		
		1	3 合衆国とラテンア メリカ	○アメリカ合衆国独立の過程と独立後の領土拡大について理解する。 ○ラテンアメリカ諸国の独立, 独立後のラテンアメリカ社会の特徴や問題を理解する。			
		1	4,フランス革命とウィ ーン体制	○フランス革命の背景, 革命の展開, ナポレオン戦争の展開を理解する。 ○フランス革命により国民国家の原則が登場し, ナポレオンの大陸制圧で欧州にナショナリズムが拡大したこと,ウィーン体制の成立と性質を理解する。			
		1	5,社会変革	○ナショナリズムや社会主義思想の出現と革命運動の性質を理解する。			
		2		○『権利章典』『独立宣言』『人権宣言』より共通点と相違点を考える。			
		2		○『権利章典』『独立宣言』『人権宣言』より共通点と相違点を考える。			
第4編 一体化の 進展と世界の再編 第16章 資本主義 と帝国主義	4	1 欧米世界	○ヨーロッパ諸国とアメリカの状況について理解する。	1.2.3.4			
	1	2 欧米経済と文化	○帝国主義の背景や特質について, 人口移動, 社会生活の変容, 新たな思想・文化など, 様々な視点で理解する。				
	1	3,帝国主義と世界秩序	○ヨーロッパのアフリカ分割や合衆国のカリブ海政策など, 欧米による世界分割を理解する。				
12月	第17章 アジア諸 地域の変革運動	3	1,西アジアの改革運動	○ワッハーブ派やパン＝イスラーム主義による改革、オスマン帝国の改革、カージャール朝への英露の進出, それに対する抵抗を理解する。	1.2.3.4		
		2	2,植民地化と民族運動	○イギリスのインド支配の拡大と特徴, イギリス支配への抵抗、東南アジア各地の植民地化と植民地経営の特徴, 東南アジアでの民族運動を理解する。			
		2	3,清の動揺と東アジア	○アヘン戦争から辛亥革命に至る経緯, 旧体制温存と変革, 近代化と排外主義、日本の勢力拡大や朝鮮半島の植民地, アジアの国際秩序を整理する。			
1月	第18章 世界戦争の時代	2	1,第一次大戦	○第一次世界大戦時の国際的な対立～大戦終結に至る経緯を理解する。	1.2.3.4		
		2	2 ヴェルサイユ体制	○ロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の成立と特徴を理解する。			
		2	3 大戦後の合衆国と 欧州	○大戦後アメリカ合衆国の社会経済の繁栄と、ヨーロッパ各国の動向を, 大戦後の各国の置かれた状況を考慮しながらその違いを理解する。			

2 月		2	4 アジア・アフリカの 国家形成の動き	○西アジア地域の国家形成の動き、インドの独立運動の展開を、ヒンドゥー・ムスリム教徒 の関係、東南アジア各地の民族運動、中国の近代化の様相と国民党の中国統一を学習する。	学年末考 査	
		1	5 世界恐慌と対立の 激化	○世界恐慌の背景と、ニューディール政策やブロック経済政策を理解する。 ○ナチスドイツの政権掌握と政治の特徴、日本の中国侵略を理解する。		
		1	6 第二次大戦	○大戦前の状況、枢軸国軍の勢力拡大、終戦にいたる経緯を理解する。		
	第5編 地球世界	1	1 合衆国の覇権と冷戦	○連合国の主導による戦後処理とその世界化の状況を理解する。		1.2.3.4
	第19章		2, 第三勢力	○第三勢力形成の展開とその現代史的意義を理解する。		1.2.3.4
	国民国家体制と東 西の対立	1	3 戦後体制の動揺	○冷戦の緩和、社会主義陣営内での対立、アメリカの地位低下とアジア諸国の成長、南北や 南南問題、国際経済体制の転換などを理解する。		
			4, 多極化とソ連の崩壊	○1970年代からソ連の崩壊までの時代を、ヨーロッパ、アジア、イスラーム復興、アフリカ やアメリカの動向、冷戦終結など様々な側面から理解する。		
	終章 経済のグローバル 化と新たな地域秩 序	1	1 経済のグローバル 化	○冷戦後の世界経済のグローバル化と、ヨーロッパにおけるEUの展開、アメリカやアジア 太平洋地域における地域統合の動向について理解する。		1.2.3.4
			2, グローバル化と国際 秩序	核軍縮、環境問題、南北問題、人権などをめぐる問題など現代の諸課題を認識する。		

3 評価の方法

(1) 評価の結果を生かす

評価は自分の学習成果を確認するためになされます。不十分な点があればその後の学習につなげましょう。そのため、返却されたテストやレポートなどをしっかり見直しましょう。

(2) 評価の観点

評価は学習で身につける力を次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	○世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組んでいるか。 ○世界が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身につけているか。
思考・判断・表現	○世界の歴史を、自然環境とのかかわりや地理的条件、日本の歴史と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 ○世界の歴史を、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることをふまえ、公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。
資料活用の技能	○世界の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができているか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身につけているか。
知識・理解	○古代から現代まで世界の政治、経済、社会、文化、宗教、生活の各領域での歴史的な事象を理解し、基本的な知識を身につけているか。 ○古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連付けながら理解しているか。

(3) 評価の時期と方法

- ①年5回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における「知識・理解」の習得の状況を評価し、論述問題等を通して「思考・判断・表現」の状況を評価します。
- ②不定期に課す課題探究学習の際のレポートは、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」および「資料活用の技能」の状況を評価する資料とします。
- ③学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ④自己評価、振り返りシートを評価の参考とします。

(4) 評定について

評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して下記のように行います。

- ①定期考査の得点 70%
- ②課題の提出（新聞等）・発表・プリント・ノート提出等の評価 15%
- ③その他授業態度・出席状況等 15%の割合。

2020（令和2）年度 「政治経済シラバス」

「政治・経済」 シラバス	単位数	2単位・3単位
	学科・学年	普通科 第3学年

科目担当 宮城富美子 比嘉健二

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 広い視野に立って、民主主義の本質について理解する。 2 現代の政治、経済、国際関係などの仕組みや動向などについて理解を深め、政治や経済の基本的な見方や考え方を身につける。 3 現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力と態度を身につける。
使用教科書・副教材等	教科書：改訂版 政治・経済（数研出版） 副教材：最新政治・経済資料集（第一学習社）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	学習内容	学習のねらい	備考	考查範
第1学期	4	政治経済の勉強について	<input type="checkbox"/> 学習の意義とガイダンス（年間計画・評価等説明）	テスト範囲の学習状況を自己評価する。	中間 考查
	5	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法	<input type="checkbox"/> 民主主義の成り立ちを歴史的観点、比較政治的観点から理解する。 <input type="checkbox"/> 各国の政治制度を理解し、近年の動きを考察する。 <input type="checkbox"/> 日本国憲法の成立過程や、三大原理、最高法規性などの日本国憲法の基本的な事項について理解し、具体的な事例に即しながら、その課題について考察する。		
	6		<input type="checkbox"/> 国会、内閣、裁判所の三権について、そのしくみや役割について理解し、その課題について考察する。		
	7				
	9	第2章 現代の国際政治	<input type="checkbox"/> 国際政治の動向、戦後国際政治の経緯、国際連合をはじめとする国際機構の役割を理解するとともに、国際平和や人類の福祉に寄与する日本の役割について考察する。 <input type="checkbox"/> 第二次世界大戦後の国際政治のあゆみを、概観して理解する。		

2 学 期	10	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと 特質	<input type="checkbox"/> 資本主義経済と社会主義経済の特徴やその変容について理解する。 <input type="checkbox"/> 市場経済の機能を理解するとともに、経済主体の中で政府が果たしている役割を理解する。 <input type="checkbox"/> 現代の金融、財政のしくみを理解し、その問題点を考える。 <input type="checkbox"/> 日本経済が直面する経済の諸問題を理解する。		中間 考 査
	11	第2章 国民経済と国際経済	<input type="checkbox"/> 国際経済の仕組みを理解し、その中で日本がどのような役割を果たしているかを考える。	テスト範 囲の学習状 況を自己評 価する。	期 末 考 査
	12	<input type="checkbox"/> 地球環境問題に対して、個人ができることを考える。 <input type="checkbox"/> 日本経済の位置を統計資料で把握し、国際貢献について考える。			
第3 学 期	1 2	第3編 現代社会の諸課題 センター入試対策	<input type="checkbox"/> 現代日本が抱える諸課題に対して、積極的に関心を持たせ、解決することへの方法を考える。 <input type="checkbox"/> センター入試の出題形式に慣れ、その解答方法を修得する。時間配分なども考慮する。	テスト範 囲の学習状 況を自己評 価する。	年 末 考 査
<p>【年間の学習状況の評価方法】 定期考査、提出物・授業への取り組み状況等を総合的に判断して評価を行う。</p>					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係について関心を高め、意欲的に課題を追究する態度や客観的に考察しようとする態度を身に付けているか。	授業の取り組み、ノート
思考・判断	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、課題の本質や解決の方法などについて、広い視野に立って多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえながら公正に判断しているか。	ノート 定期考査
技能・表現	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なマスメディアを通して収集し、役立つ情報を活用して学習の中で、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できているか。	ノート 課題
知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などについて理解し、その知識を身に付けているか。	定期考査、課題、小テスト

「新詳地理B」シラバス

教科	科目名(単位数)	学年	学級	担当者
地歴	地理B(4)	2	1~10組の地理選択者	比嘉健二 田原伸繁
使用教科書・副教材		帝国書院 新詳地理B・帝国書院 新詳高等地図 ・ 第一学習社 最新 地理図表GEO		

月	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び内容	評価規準			
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
4	第I部 さまざまな地図と地理的技能	1章 地理情報と地図 1節 地図の発達 1 現代世界の地図 2 世界観の変化と地図	現代世界の地図について、どのような技術を利用してつくられているかをとらえ、地図の有用性に気づくとともに、時代背景や地図の中心の違いなどによって世界観が変化することについて考察する。	○現代世界の地図について、さまざまな技術を利用してつくられた地図の読図や比較、地理情報地図の地図化などの活動を通して、現代世界の地図に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○リモートセンシング・GNSS・GISなどを利用してつくられた地図の有用性について考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○作成方法や世界観が異なる現代世界のさまざまな地図を収集・比較し、有用な情報を適切に選択できる。	○リモートセンシング・GNSS・GISなど現代世界の地図作りに利用される技術の特徴と有用性を理解し、その知識を身につけている。
		2節 地図の種類とその利用 1 地球上の位置 2 時差の求め方 3 地球儀とさまざまな地図	球体としての地球の特徴をとらえ、緯度・経度の違いによって時差や気候に違いが生じるメカニズムを考察する。さらに、球体を平面に表現した地図の種類とその利用についても考察し、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身につける。	○地図の種類とその利用について、球体としての地球の特徴や緯度・経度の違いによる影響、地図に表現した場合の特性に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○地図の種類とその利用について、緯度の違いによる人々の生活への影響や、球体を平面に表現した地図の種類とその利用について考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○地球儀を用いて、地球上の任意の地点の緯度・経度を表したり、大陸間の方位や距離、時差を示したりする方法を身につけている。	○球体としての地球の特徴と位置を地球儀に示す方法、これを地図に表現した場合の各図法の長所短所について理解し、その知識を身につけている。
		3節 地理情報の地図化	情報の地図化や読み取りなどの活動をjして、地図の有用性に気づくとともに、地理情報を地図上に表現する際の効果的な表現方法を考察する。	○地理情報が表現された地図の作図や読み取りなどの活動を通して、地図の有用性に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○地理情報を統計地図化するにあたり、どのような表現方法を用いれば適切な地図がつけられるかを考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○さまざまな統計地図から、示された情報を適切に収集するとともに、地理情報を地図化する際、情報の特性に応じて地図の形態を使い分け、適切な統計地図を用いることができる。	○統計地図の種類や長所短所、適する用途を理解し、その知識を身につけている。
	第II部 現代世界の系統地理的考察	2章 地図の活用と地域調査 1節 地図の活用 2節 身近な地域の調査 1 調査テーマの設定 2 課題の調査 3 調査結果のまとめと発表	地図の活用と地域調査について、直接的に調査できる地域を地形図などの地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身につける。	○地図の活用と地域調査について、地形図の読図や資料収集などを意欲的にj行い、地域調査に対する関心と課題意識を高める。	○地図の活用と地域調査について、地形図や資料を活用した地域的特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○地形図の読図などを通して、調査内容に関する地域的情報を適切に収集・選択できる。	○地域調査の情報収集から発表までの方法や地形図や空中写真の利用方法を理解し、その知識を身につけている。
		1章 自然環境 1節 世界の地形 1 地形の成因 2 地球規模の大地形 3 河川と海岸の小地形 4 そのほかの特徴的な地形	世界の地形について、大地形、小地形、そのほかの地形の分布や特徴、成因について考察するとともに、災害や土地利用など人間生活とのかかわりを考察する。	○世界の地形について、その分布や特徴、成因などについて関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界の地形について、その分布や特徴を成因と関連付けて考察するとともに、人間生活とのかかわりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○地形図や写真などの資料から、有用な情報を適切に選択し、その地域の地形の特徴と成因を読み取ることができる。	○世界の地形について、分布や特徴、成因や人間生活とのかかわりについて理解し、その知識を身につけている。
		2節 世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 気候と植生・土壌 4 変化する気候	世界の気候について、地域ごとの違いとその要因について理解を深めるとともに、気候区ごとの特徴や人間生活との関係を考察する。また、地球規模での気候変動と人々への影響を考察する。	○世界の気候について、地域ごとの気候の違いや人間生活との関係に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界の気候について、地域ごとの違いや特徴を、地球規模の循環現象などと関連付けて考察するとともに、人間生活とのかかわりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○世界の気候について、地域や気候区分ごとの違いを示す気温図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、その特徴や相違点などを読み取ることができる。	○世界の気候の成因、各気候区の特徴、気候変動と異常気象などについて、系統地理的にとらえる視点や考察方法、人間生活への影響などを理解し、その知識を身につけている。
		3節 日本の自然の特徴と人々の生活 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災	日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、これによる自然災害の特徴を理解するとともに、土地開発の状況などもふまえて防災のあり方を考察する。	○日本特有の地形・気候と、これによって生じる自然災害の特徴や防災のあり方について関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○日本の地形や気候の特徴を、プレートや大陸との位置関係などから考察するとともに、日本で発生しやすい災害の特徴やこれに対する防災のあり方を多面的・多角的に考察し、その要因や課題を適切に表現できる。	○日本の地形と気候、自然災害と防災に関するデータや写真などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、日本の地形と気候、自然災害と防災の特徴や課題を読み取ることができる。	○日本の地形と気候の特徴とこれによって生じる自然災害の特徴や防災のあり方を理解し、その知識を身につけている。
		4節 環境問題 1 世界の環境問題 2 さまざまな環境問題 3 日本の環境問題	世界の環境問題について、その背景や原因、影響、対策を多面的に考察する。また、日本国内の環境問題について発生した背景や問題解決への取り組みを考察する。	○世界と日本の環境問題の原因、影響、対策に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界と日本の環境問題の原因、影響、対策について、自然環境の学習内容などと関連付けて多面的・多角的に考察し、特徴や地域的な分布、今後の課題などについて適切にまとめ、表現できる。	○世界と日本の環境問題に関するデータや写真などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、状況変化の推移や地域差などを読み取ることができる。	○世界と日本の環境問題の原因、影響、対策などを理解し、その知識を身につけている。
		2章 資源と産業 1節 世界の農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 世界の林業・水産業 5 日本の農林水産業	世界の農林水産業について、自然条件や社会条件と関連づけて農業の地域区分をとらえるとともに、現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。また、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。	○世界の農林水産業について、現代世界と日本の農林水産業に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○現代世界や日本の農林水産業の現状と課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○現代世界や日本の農林水産業の生産や分布の特徴に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、農林水産業の現状や課題について読み取ることができる。	○世界の農林水産業について、自然条件や社会条件の違いと関連付けて農業の地域区分や各農業の特徴を理解し、その知識を身につけている。
		7	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 発展途上国の食料問題 3 先進国の食料問題 4 日本の食料問題	食料問題について、世界の食料供給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国と先進国の事例を考察する。また、日本が抱える食料問題を考察する。	○食料問題について、発展途上国や先進国、日本の食料問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○食料問題について、発展途上国や先進国、日本の食料問題の状況とその成因を、系統地理的にとらえる視点や考察方法を考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○食料の生産と消費の推移や地域的なかたよりに関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、食料問題の現状や課題について読み取ることができる。
3節 世界のエネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの種類や分布、利用の現状や方法を考察する。		○世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの資源の特徴や利用法、分布のかたよりなどに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの資源の特徴や利用法、分布のかたよりを、自然環境の学習内容をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○エネルギー資源や鉱産資源の生産や分布に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、資源ごとの特徴や問題点について読み取ることができる。	○世界のエネルギー・鉱産資源について、その種類や分布、おもな利用法などを理解し、その知識を身につけている。	
4節 資源・エネルギー問題 1 現代世界の資源・エネルギー問題 2 さまざまな資源・エネルギー問題 3 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について、世界と日本の資源・エネルギー問題を大観し、問題の原因や近年の動向、問題解決の取り組みを考察する。また、日本が抱える資源・エネルギー問題を考察する。		○資源・エネルギー問題について、生産・消費の不均衡とさまざまな資源・エネルギー問題の動向に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○資源・エネルギー問題について、生産と消費の不均衡や利用法の課題、石油情勢の背景やこれらのかたよりのエネルギー利用のあり方などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○資源やエネルギーの生産と消費に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、国や資源ごとの特徴や課題について読み取ることができる。	○資源やエネルギーの不均衡や石油情勢、エネルギーのあり方などを理解し、その知識を身につけている。	

月	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び内容	評価規準			
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
9	5節 世界の工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地とその変化 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 日本の工業	7	世界の工業について、工業の発達過程や種類、立地とその変化、現状と課題を考察する。また、日本の工業の特徴と課題を考察する。	○世界の工業について、工業の発達過程や種類、立地とその変化、現状と課題などに関する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界の工業について、工業の立地や発達に影響をおよぼす自然条件や社会条件をふまえて工業地域の発達と変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○工業生産や地域的分布に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、国や種類ごとの特徴や課題について読み取ることができる。	○世界の工業について、工業の発達過程や種類、立地とその変化、現状と課題、及び日本の工業の特徴と課題を理解し、その知識を身につけている。
	6節 第3次産業 1 第3次産業の発展 2 多様化する観光産業 3 日本の観光産業	2	第3次産業について、その特徴や発展の背景、地域差などをとらえとともに、通信の発達による世界の一体化と地域差を考察する。	○第3次産業について、近年の動向や地域差に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○第3次産業の地域差や近年の動向について、情報化や国際化進展の影響などをふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○商業やサービス業、観光業の動向に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、第3次産業の動向や地域差について読み取ることができる。	○商業やサービス業、観光業の特色や動向などを理解し、その知識を身につけている。
	7節 世界を結ぶ交通・通信 1 世界の交通網 2 情報と通信の発達	1	世界を結ぶ交通・通信について、交通機関の種類や特徴をとらえとともに、通信の発達による世界の一体化と地域差を考察する。	○世界を結ぶ交通・通信について、交通機関の種類や特徴に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○交通機関や通信の発達によって一体化が進む世界が抱える課題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○各種交通の運行状況やインターネットなど通信の普及に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、世界を結ぶ交通・通信網の分布や地域差について読み取ることができる。	○交通や通信の発達の状況や一体化の進行、地域差の拡大などを理解し、その知識を身につけている。
	8節 現代世界の貿易と経済圏 1 私たちの生活を支える貿易 2 国際分業の発達と貿易の地域間格差 3 貿易の自由化と経済連携 4 日本の貿易の現状と課題	2	現代世界の貿易と経済圏について、進展する国際分業の現状と課題、貿易の自由化と経済連携の動向を考察する。また、現代世界における日本の貿易の現状と課題を考察する。	○現代世界の貿易と経済圏について、国際分業が進む世界と日本の貿易の現状に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○現代世界の貿易と経済圏について、国際分業の現状と課題をふまえて、貿易の自由化と経済連携の動向と課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○世界の国家間や経済圏間の貿易に関する統計などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、現代世界の貿易と経済圏の規模や地域間関係について読み取ることができる。	○貿易に関する用語や経済圏の組織、世界の貿易の特色や動向などを理解し、その知識を身につけている。
10	3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口	1	世界の人口について、その分布の特徴や動態、人口構成や人口転換を考察する。	○世界の人口について、その分布の特色や動態、人口構成や人口転換に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界の人口について、世界の人口分布のかたよりと人口増加の原因、人口構成と人口転換の考え、国際的な人口移動の背景を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○世界や州別・国別の人口分布や動態に関するデータ、人口ピラミッドなどの諸資料から、有用な情報を適切に比較・選択し、世界人口の特色や国・地域ごとの差異について読み取ることができる。	○世界人口の分布と動態、人口構成の特色と人口転換のしくみを理解し、その知識を身につけている。
	2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 発展途上国の人口問題 3 先進国の人口問題 4 日本の人口問題	2	人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の人口問題の課題と解決への取り組みを考察する。	○発展途上国と先進国のそれぞれについて、人口問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界の人口問題について、発展途上国と先進国の違いをふまえて、それぞれの課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○人口爆発や少子高齢化の人口動態に関する統計や事例などの諸資料から、有用な情報を適切に比較・選択し、人口問題の動向や国・地域ごとの差異について読み取ることができる。	○発展途上国、先進国、日本のそれぞれについて、人口問題の実態を理解し、その知識を身につけている。
	3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の機能と生活	3	村落と都市について、その立地条件や発達の背景、村落や都市がもつ機能と人間生活のかかわりを考察する。	○村落と都市について、その立地条件や発達経緯、機能に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○村落と都市について、その立地や構造、地域の歴史や自然条件、社会条件などをふまえて多面的・多角的に比較・考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○村落や都市の形態や分布、人口規模、都市の地域構造などに関する統計や地図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、村落や都市の有する機能や発達経緯などについて読み取ることができる。	○村落と都市の立地条件や、発達の背景、機能などを理解し、その知識を身につけている。
	4節 都市・居住問題 1 世界の都市・居住問題 2 発展途上国の都市・居住問題 3 先進国の都市・居住問題 4 日本の都市・居住問題	3	都市・居住問題について、世界の都市・居住問題を大観し、発展途上国と先進国のそれぞれについて、その要因や対策をとらえる。また、日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	○発展途上国と先進国のそれぞれについて、都市・居住問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○都市・居住問題について、世界の都市・居住問題の要因や対策をふまえて、日本の都市・居住問題の対応と課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○発展途上国、先進国、日本の都市・居住問題に関する統計や地図などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、都市ごとの問題点の相違などについて読み取ることができる。	○発展途上国、先進国、日本の都市・居住問題の特徴や、解決への道筋などを理解し、その知識を身につけている。
11	4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住 1 世界の衣食住の地域的差異 2 衣食住の世界的な画一化 3 日本の衣食住	2	世界の衣食住について、地域的差異があることに気づくとともに、世界的に画一化が進む現状を考察する。また、日本の衣食住の特徴やその変化を考察する。	○世界の衣食住について、地域的差異が生じていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○世界の衣食住について、さまざまな衣食住の地域的差異の背景、世界と日本の衣食住の変化と世界的な画一化の要因を、自然環境や社会環境の変化などを踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○世界の衣食住の写真や分布図、巨大企業の海外進出のデータなどの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、生活文化の地域的差異や画一化の様子について読み取ることができる。	○衣食住の分布や地域的差異の特徴、画一化の進展状況などを理解し、その知識を身につけている。
	2節 民族と宗教 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教	2	民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活とのかかわりについて考察する。	○民族と宗教について、その分布や人々の生活との関係に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○民族と宗教について、民族とは何かを言語とのかかわりから、宗教とは何かを生活とのかかわりから、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○民族と言語や、宗教と生活のかかわりに関する写真などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、民族・宗教の分布や特徴、生活とのかかわりについて読み取ることができる。	○世界の言語分布や宗教の特徴、生活とのかかわりなどを理解し、その知識を身につけている。
	3節 現代世界の国家 1 現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え方、さまざまな国家と国家間の関係の課題を考察する。	1	現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え方、さまざまな国家と国家間の関係の課題を考察する。	○現代世界の国家について、その領域や国境、国家形態そのものの違いに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え方、さまざまな国家と国家間の関係の課題を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○領域・国境やさまざまな国家に関するデータなどの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、現代世界の国家の特徴について読み取ることができる。	○国境と領域のきまり、さまざまな国家の分類などを理解し、その知識を身につけている。
	4節 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 多様な原因をもつ民族・領土問題 3 共生に向けた取り組み 4 日本の領土をめぐる問題と外国人との共生	4	民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、そのおもな原因と共生に向けた取り組みを考察する。また、日本の領土をめぐる問題や日本国内で暮らす外国人との共生の課題を考察する。	○民族・領土問題について、そのおもな原因と共生に向けた取り組みに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○民族・領土問題について、世界各地や日本の事例を取り上げ、問題が起こる背景や、これを解決して民族が共生するための方策を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○世界各地でおこっている民族・宗教や領土に関する紛争のデータや事例などの諸資料から、有用な情報を適切に選択し、民族・領土問題に関する原因の相違などについて読み取ることができる。	○世界各地の民族・宗教や領土に関する問題や多文化共生の取り組みなどを理解し、その知識を身につけている。
	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2章 現代世界の地誌的考察 1節 地域の考察方法	0.8 0.2	地域区分の目的と意義を理解し、有用性に気づく。 国・地域ごとの地域区分と考察の方法について理解する。	○地域区分の目的や意義をふまえて、その有用性に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ○地域の考察方法について、地誌的に考察する三つの方法に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○地域区分の目的や意義、有用性について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 ○地域の考察方法について、三つの方法それぞれの特徴や相違点を考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○地域区分の目的や意義をふまえてさまざまな地域区分を示した図から有用な情報を適切に選択し、読み取ることができる。 ○地域区分と考察方法を示した資料から、有用な情報を適切に選択し、地誌的考察方法の特徴について読み取ることができる。	○地域区分の目的や意義、方法、有用性を理解し、その知識を身につけている。 ○多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する方法、特色ある事象とほかの事象を有機的に関連づけて動態的に考察する方法、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する方法の三つの方法を理解し、その知識を身につけている。

月	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び内容	評価規準			
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
12	2節 東アジア ○変化に富んだ地形と気候 1 中国の歩みと巨大な人口 2 中国の食生活と農業の変化 3 中国の工業化と巨大市場 4 中国の海外進出 ●人や物で緊密に結びつく日本と中国 5 朝鮮半島の歩みと文化 6 韓国の産業の発展と変化 ●相互理解をめざす日本と	6.0	東アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、自然環境、中国の歴史・文化と巨大な人口、農業、工業、中国の海外進出、朝鮮半島の歴史・文化、韓国の産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○東アジアについて、中国や朝鮮半島の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○東アジアについて、日本との関係を含む中国や朝鮮半島の歴史的背景をふまえた地域の変容、中国の人口増加と経済格差、中国・韓国の経済発展などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○東アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、東アジアの国々の特徴や近年の動向について読み取ることができる。	○東アジアの自然の特徴、日本との関係を含む中国や朝鮮半島の歴史的背景をふまえた地域の変容、中国の人口増加と経済格差、中国・韓国の経済発展などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	3節 東南アジア モンスーンの影響を受ける自然環境 1 東南アジアの歴史と文化・民族 2 東南アジアの農業とその変化 3 ASEANの結成と工業の発展 4 ASEANの変化と課題 ●ますます身近になる東南アジア	4	東南アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、自然環境、歴史と文化・民族、農業、工業、ASEANの変化と課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○東南アジアについて、東南アジア諸国の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○東南アジアについて、東南アジア諸国の多様性に富む文化や民族、歴史的背景をふまえた地域の変容、ASEAN諸国にみられる農業の変化や工業の発展、地域格差や都市問題などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○東南アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、東南アジアの国々の特徴や近年の動向について読み取ることができる。	○東南アジアの自然の特徴、東南アジア諸国の多様性に富む文化や民族、歴史的背景をふまえた地域の変容、ASEAN諸国にみられる農業の変化や工業の発展、地域格差や都市問題などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	4節 南アジア 三つに分けられる地形とモンスーンの影響を受ける気候 1 南アジアの歩みとヒンドゥー教 2 インドの農業と農村の変化 3 発展するインドの産業と	3	南アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの産業と生活の変化という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○南アジアについて、インドを中心とした地域の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○南アジアについて、インドのヒンドゥー教を背景とした地域の構造と変容、インドの農業と課題、IT産業の発展のしくみなど地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○南アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、南アジアの国々の特徴や近年の動向について読み取ることができる。	○南アジアの自然の特徴、インドのヒンドゥー教を背景とした地域の構造と変容、インドの産業と生活の変化などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
1	5節 西アジアと中央アジア 乾燥した大地が広がる二つの地域の自然環境 1 イスラームを中心とした生活文化 2 交易を軸に発達した都市 3 豊かな資源と人々の生活 ●資源と人の交流でつながる日本と西アジア・中央アジア	3	西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然環境、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境の地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○西アジアと中央アジアについて、二つのアジア地域の歴史的背景をふまえた地域の変容、交易を軸に発展した都市の共通性の背景、恵まれた資源と産業の共通性と課題などの地域的特色や地球的課題を、類似的な性格の二つの地域を比較して考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○西アジアと中央アジアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、西アジアと中央アジアの相違点や近年の動向について読み取ることができる。	○西アジアと中央アジアの自然の特徴、二つのアジア地域のイスラームを中心とした生活文化の歴史的背景をふまえた地域の変容、交易を軸に発展した都市や豊かな資源と産業などの共通する地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 赤道を軸に南北で対照的な二つの地域の気候と植生 1 歴史的な背景によって形成された多様な文化 2 一次産品への依存が強い産業 3 人々の生活の変化とほか地域との結びつき ●新たな関係を模索する日本とアフリカ	3	北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目した地域区分にもとづき、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化とほか地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化の地域にみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、歴史的背景をふまえた地域の変容、文化の異質性、一次産品への依存が強い経済構造、生活の変化とほか地域との結びつきなどの地域的特色や地球的課題を、対照的な性格の二つの地域を比較して考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○北アフリカとサハラ以南のアフリカ自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、北アフリカとサハラ以南のアフリカの相違点や近年の動向について読み取ることができる。	○北アフリカとサハラ以南のアフリカの自然の特徴、中近東文化と中南アフリカ文化の地域の歴史的背景をふまえた地域の変容、これによって生まれた文化の特徴、一次産品への依存が強い経済構造、生活の変化とほか地域との結びつきなどの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	7節 ヨーロッパ 高緯度でも温暖な気候と安定した大地 1 ヨーロッパの成り立ち 2 結びつくヨーロッパ 3 ヨーロッパの多様な農業と共通農業政策 4 移り変わるヨーロッパの工業 5 これからのヨーロッパ ●産業と文化で結びつく日	5	ヨーロッパについて、形式的な地域区分にもとづき、自然環境、歴史、EUの結びつき、農業、工業、今後の動向という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○ヨーロッパについて、ヨーロッパの各地域の自然・歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○ヨーロッパについて、産業革命以来の歴史的背景をふまえた地域の変容、各地域の民族と宗教の課題、EUを中心とした地域の結びつきと農業・工業の変化などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○ヨーロッパの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、ヨーロッパの国々の特徴や近年の動向について読み取ることができる。	○ヨーロッパの自然の特徴、産業革命以来の歴史的背景をふまえた地域の変容、各地域の民族と宗教の特徴、EUを中心とした地域の結びつきと農業・工業の変化などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
2	8節 ロシア 広大な国土と多様な自然環境 1 ロシアの歴史と社会の変化 2 大きく変化したロシアの産業	2	ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然環境、歴史、産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境の地域にみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○ロシアについて、かつての社会主義国としての歴史的背景をふまえた地域の変容、社会主義時代からの農業や鉱工業の変容などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○ロシアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、ロシアの特徴や近年の動向について読み取ることができる。	○ロシアの自然の特徴、かつての社会主義国としての歴史的背景をふまえた地域の変容、社会主義時代からの農業や鉱工業の変容などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	9節 アングロアメリカ 南北と東西で異なる自然環境 1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 アメリカ合衆国の人口と都市 3 世界の農業のかぎをにぎるアメリカ合衆国 4 進化する科学技術と産業 5 世界の中のアメリカ合衆国 6 アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダ	6	アングロアメリカについて、文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界に影響のあるアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○アングロアメリカについて、移民国家としてのアメリカ合衆国やカナダにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○アングロアメリカについて、移民が建国した歴史的背景をふまえた地域の変容、人種・民族的課題、大都市問題の実態や背景、農業と工業の変化と課題、世界への経済・文化的影響、アメリカ合衆国とカナダの関係などの地域的特色や地球的課題を、項目ごとに整理して静態的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○アングロアメリカの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、アングロアメリカの地域的特色や近年の動向について読み取ることができる。	○アングロアメリカの自然の特徴、移民が建国した歴史的背景をふまえた地域の変容、これによって生まれた人種・民族の特徴、大都市問題の実態、農業と工業の変化、世界への経済・文化的影響、アメリカ合衆国とカナダの関係などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	10節 ラテンアメリカ 南北と標高で異なる自然環境 1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制と農業の変化 3 鉱産資源を基盤とした工業化と生活の変化	3	ラテンアメリカについて、文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象とほかの事象を有機的に関連づけて動的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○ラテンアメリカについて、スペインやポルトガルの影響を強く受けた地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○ラテンアメリカについて、歴史的背景をふまえた地域の変容や、複雑な人種・民族構成や大土地所有制による農業の特徴が生まれたしくみ、鉱産資源を基盤とした工業化の進展と格差の課題などの地域的特色や地球的課題を、有機的に関連づけて動的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○ラテンアメリカの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに、ラテンアメリカの地域的特色や近年の動向について読み取ることができる。	○ラテンアメリカの自然の特徴、植民地化された歴史的背景をふまえた地域の変容、これによって生まれた人種・民族の特徴や大土地所有制による農業、鉱産資源を基盤とした工業化の進展と経済的格差などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。

月	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び内容	評価規準			
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・技能	知識・理解
3	11節 オセアニア 一つの大陸と太平洋の島々 1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会 2 資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき 3 アジア諸国に輸出される農畜産物 4 物や人の移動で強まるアジアとの結びつき ●物や人の交流を深める日本とオセアニア	3	オセアニアについて、形式的な地域区分にもとづき、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつきという特色ある事象とほかの事象を有機的に関連づけて動的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○オセアニアについて、自然環境や歴史・文化・産業などにみられる地域的特色や地球的課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○オセアニアについて、歴史的背景をふまえた地域の変容や、民族・文化的特徴が生まれたしくみ、深まるアジアとの関係と課題などの地域的特色や地球的課題を、有機的に関連づけて動的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○オセアニアの自然・歴史・文化・産業などに関する統計や主題図・写真などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとにオセアニアの地域的特色や近年の動向について読み取ることができる。	○オセアニアの自然の特徴、オーストラリア、ニュージーランドの移民の歴史的背景をふまえた地域の変容、これによって生まれた民族・文化の特徴、深まるアジアとの関係の実態などの地域的特色や地球的課題を理解し、その知識を身につけている。
	3章 現代世界と日本 1節 日本が抱える地理的な諸課題 2節 日本の抱える課題の追究 1 テーマを設定する 2 課題を探究する 3 仮説を検証する 4 まとめと発表	1	現代世界において日本が抱える地理的な諸課題について、多面的・多角的に考察し、探究する活動を通して、その解決の方向性や将来像について考察する。	○日本が抱える地理的な諸課題について、関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○日本が抱える地理的な諸課題について、これまでの歴史的経緯などをふまえ、その解決の方向性や将来像などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。	○現代世界の日本に関する統計などの諸資料を適切に収集し、収集した資料から、有用な情報を適切に選択して、これをもとに日本が抱える地理的な諸課題の原因や今後の展望などが読み取ることができる。	○さまざまな規模の地理的な諸課題を抱える日本の現状と今後重要となる取り組みを理解し、その知識を身につけている。

2020（令和2）年度 日本史Bシラバス

教科	地理歴史	科目	日本史B	履修学年	2 学年	単位数	4 単位
使用教科書	山川出版社 詳説日本史B			資料集	帝国書院	図説日本史通覧	

教科目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化を伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

学習内容

1 「歴史の考察」では、資料を活用して歴史の基本的な考察方法を理解させると共に、各時代で自ら主体的に主題を設定して歴史を追究する学習や地域社会にかかわる学習を通じて、多面的・多角的な歴史の見方・考え方を身に付ける。

2 「原始・古代の社会・文化と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までの日本列島における社会・文化について、東アジア世界の動向と関連付けを踏まえて、原始社会の時期、国家の形成と律令体制の確立の時期、律令体制の変質の時期の3つの構成から理解する。

3 「中世の社会・文化と東アジア」では、武家政権の成立から戦国時代までの社会・文化における武士が政治力をつけていく過程について、武家政権の成立期と武家政権の成長期の構成の中、世界的視野と国内諸地域への視点を踏まえて考察する。

4 「近世の社会・文化と国際関係」では、織豊政権から江戸時代における社会・文化について、封建的支配体制が作り上げられる幕藩体制の確立、町人文化が生み出された幕藩体制の展開、列強の接近に伴う幕藩体制の動揺の3つの構成から世界史的な流れと関連させて考察する。

5 「近代日本の形成とアジア」では、ペリー来航から明治時代までの社会・文化について、開国・明治維新・自由民権運動を経て近代日本が形成されていく過程を、アジアにおける国際環境の変化や国際関係の推移に着目して考察する。

6 「両世界大戦期の日本と世界」では、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる日本の歴史の展開について、国際社会における日本の立場と対外政策の変化を、近代国家として発展を遂げた日本が全体主義の台頭により戦争に突入していく点を踏まえて理解する。

7 「第二次世界大戦後の日本と世界」では、第二次世界大戦後の日本について、新憲法を制定し独立した占領下の日本、高度成長時代、1970年代以降の激動する世界と日本の3つの構成から、世界の動きと関連させて総合的に考察する。

学習方法

「資料をよむ」学習を冒頭に取り入れ、日本史学習への関心を高める。原始・古代から戦後までの学習については、地理・公民・特別活動との連携や国際環境との関連を重視する中、広い視野から多面的・多角的に歴史的な事象を考察する。その際、「資料にふれる」や「主題を設定し追究する学習」を適宜取り入れる。また、余り細かな事象には深入りしないよう留意し、日本文化の学習については生活文化や民俗学の視点も踏まえ、その特色と形成過程を総合的に考察する。

学期	時数	学 習 内 容	月	評価の観点				評 価 基 準	
				関	思	資	知		
1 学 期	1	1.「歴史へのアプローチ」 歴史と資料 大仏造立をめぐる歴史資料 * 諸資料に基づいて、大仏造立の経緯が明らかになり、教科書の叙述が成り立っていることに気付く。	4	○	○	○	○	○大仏造立についての叙述が文献史料・発掘調査で出土した金属遺物や文字資料、美術品・地域の伝承などから成り立っていることを理解できたか。	
	1	◎第1部 原始・古代 第1章 .日本文化のあけぼの ア文化のはじまり * 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 * 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。		○	○			○日本における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。 ○黒曜石などの考古資料を提示し、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察できたか。	
	1	イ 農耕社会の成立 * 大陸からの道具の流入や稲作の伝播などを踏まえて弥生文化の形成を理解する。 * 集落・墓の変容からも見られるように富の蓄積が開始される中、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて理解する。		○	○			○水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を発掘された土器や農具から考察できたか。 ○小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察できたか。	
	1	ウ 古墳とヤマト政権 * 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 * ヤマト政権の統一に至る国家の形成過程について東アジア世界との関係、古墳時代の人々の生活の変容などを踏まえて考察する。		○		○		○前方後円墳をはじめとする古墳やそれに伴う石室の形状や大きさなどの変容からヤマト政権成立までの過程を考察できたか。 ○中国及び朝鮮半島の情勢との関連、文字や仏教などの大陸文化の受容を踏まえ、ヤマト政権の成立がとらえることができたか。また、古墳文化の変化や生活の変化、大王を中心とする政治制度も踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。	
	1	第2章 律令国家の形成 ア 飛鳥の朝廷 * ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、推古朝を中心とする飛鳥の朝廷の時代を理解する。					○	○	○台頭する蘇我氏と厩戸王を中心とする朝廷の対立や飛鳥文化の形成について、仏教や遣隋使・遣唐使など大陸との交流を踏まえて考察できたか。
	1	イ 律令国家の成立					○		○大化の改新から平城京に至るまでの政治的経過を律令体制整備の視点

2	<p>公領の動きに変化があったことを理解する。</p> <p>* 地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。</p> <p>[中間考査] [ノート提出]</p> <p>◎第2部 中世 第4章.中世社会の成立</p> <p>2 ア院政と平氏の台頭</p> <p>* 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・社会を考察する。</p> <p>2 *</p> <p>* 国際的な出来事や文化の動向に着目して、平氏政権における武家政権の形成過程を理解する。</p> <p>2 イ鎌倉幕府の成立</p> <p>* 本格的な武家政権としてとして成立した鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>2 ウ武士の社会</p> <p>* 公武関係に着目して、執権政治の確立にいたるまでの中、鎌倉幕府が公家政権よりも優位に立っていく過程を理解する。</p> <p>2 *</p> <p>* 武士の生活と地方支配を通じて、土地支配の実質的な支配権を地頭が掌握するようになっていった過程を考察する。</p> <p>2 エ蒙古襲来と幕府の衰退</p> <p>* 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>1 オ鎌倉文化</p> <p>* 鎌倉新仏教の成立により庶民や武士の活動が活発化し、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>第5章 武家社会の成長</p> <p>2 ア室町幕府の成立</p> <p>* 南北朝の動乱から室町幕府の成立</p>	6		○ ○			<p>○武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができたか。</p> <p>○延久の荘園整理令が出され、荘園公領制が明確化されたことを踏まえ、院政の政治構造や社会を理解できたか。</p> <p>○院政期後半における武士の影響力の拡大や平氏政権における日宋貿易の展開、地方文化の発展を踏まえ、武家政権の成立過程を把握できたか。</p> <p>○源平の争乱から鎌倉幕府成立までの過程、鎌倉幕府と朝廷による二元的支配の構造、封建制度の成立に着目することができたか。</p> <p>○北条氏が台頭し、承久の乱を機に執権政治を確立していくことを踏まえ、武家政権の形成を見ることができたか。</p> <p>○鎌倉幕府の政治・軍事体制の根幹を成す惣領制の成立、土地支配をめぐる地頭と荘園領主との紛争などに着目しつつ、武家政権の基盤について考察できたか。</p> <p>○文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。</p> <p>○浄土宗・浄土真宗・日蓮宗・時宗に加え、東アジアとの交流から禅宗が伝わり、鎌倉新仏教が成立したことに着目できたか。</p> <p>また、武士や庶民を題材にした文学や絵巻物が生まれ、力強く写実的な彫刻が発達について考察できたか。</p> <p>○鎌倉幕府の滅亡、建武の新政を踏まえて南北朝の動乱を考察し、守護大名などに着目して室町幕府の機構の確</p>
		7		○ ○			

	と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて理解する。					立について理解できたか。
2	イ 幕府の衰退と庶民の台頭 * 応仁の乱を機に下剋上の風潮が生まれて幕府が動揺する中、庶民の活動が社会秩序の変革の原動力となりえるまで成長し手行ったことを理解する。		○	○	○	○ 応仁の乱をその後の影響にも着目して考え、惣村の形成や土一揆の発生など力強い庶民の活動を踏まえて、幕府の衰退を考察する。
2	* 諸産業の発達による庶民の台頭、東アジアとの交流などを踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。		○	○	○	○ 流通経済の進展による農業・商工業の発達、日明貿易の展開、アイヌ・琉球との交流を踏まえて庶民が台頭する姿を考察できたか。
1	ウ 室町文化 * 武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。		○	○	○	○ 南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生花などを例にとり理解できたか。
1	* 庶民文化が萌芽し、戦国大名の保護を踏まえて文化が地方に普及したことを理解する。		○	○	○	○ 今日までつながる庶民文芸の流行、文化や新仏教の地方普及に着目して、庶民文化を理解できたか。
2	エ 戦国大名の登場 * 応仁の乱以降下剋上の風潮を背景にして各地に登場した戦国大名について、各地域の地理的条件と関連づけて理解する。	○	○	○	○	○ 領国統治を強化して富国強兵策を推進した戦国大名、堺や博多に見える都市の発展の原動力となった庶民の力を踏まえて戦国時代の始まりを考察できたか。
	[期末考査] [ノート提出]					
	◎ 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 ア 織豊政権 2 * 大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 2 * 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義について理解する。	9	○	○	○	○ 鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか ○ 幕藩体制とのつながりに着目して、検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。
1	イ 桃山文化 * 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 *			○	○	○ 桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着目して考察できたか。

	<p>リ化政文化</p> <p>1 * 化政文化について、学問・思想・美術・生活文化の新たな展開に着目して、文化の中心であった江戸はもとより地方文化の成長にも留意して考察する。</p> <p>〔中間考査〕〔ノート提出〕</p> <p>◎第4部 近代・現代</p> <p>第9章 近代国家の成立</p> <p>1</p> <p>1</p> <p>2 * 開国から明治維新に至るまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。</p> <p>2 * 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡に至るまでの経過を社会・経済の変化と関わらせて理解する。</p> <p>イ 明治維新と富国強兵</p> <p>2 * 明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。</p> <p>2 * 欧米の文化・思想の影響により日本を欧米諸国と同等の位置へ引き上げようとする一連の近代化政策がとられ、それが日本人の近代への覚醒をもたらせたことを理解する。</p> <p>ウ 立憲国家の成立と日清戦争</p> <p>2 * 政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。</p> <p>2 * 欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りを目指した経過について考察する。</p> <p>エ 日露戦争と国際関係</p> <p>2 * 日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。</p>						<p>○幕藩体制に批判的な化政文学、洋学・国学など新たな学問・思想の起こり、寺子屋などの庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して、文化における近代化の芽生えを考察する。</p> <p>○日米和親条約・日米修好通商条約の締結、開港による経済情勢の変化に着目して、幕末の政局の転換を理解できたか。</p> <p>○公武合体、尊王攘夷運動、討幕運動に着目して、近代国家の基盤を形成となる明治維新の意義を理解できたか。</p> <p>○廃藩置県・四民平等・地租改正・殖産興業政策などに着目して、明治新政府が強力な中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。</p> <p>○欧米文化の導入による文明開化と欧米諸国と同様の姿勢をとるようになったアジア政策など、多面的・多角的にその影響をとらえることができたか。</p> <p>○国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚や、欧米諸国以外では初めて制定された大日本帝国憲法の意義についても理解できたか。</p> <p>○日本が近代国家として国際的地位を確立するため、条約改正やそれに伴う諸法典の整備など国内体制の確立を図り、朝鮮問題を機とする日清戦争により欧米に近付こうとした点について理解できたか。</p> <p>○日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州への進出の動きは国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察でき</p>
--	---	--	--	--	--	--	--

2	<ul style="list-style-type: none"> * 立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 					<p>たか。</p> <p>○立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。</p>
	<p>オ近代産業の発展</p>					
2	<ul style="list-style-type: none"> * 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 					<p>○殖産興業政策を基礎に、産業基盤の整備の進行、繊維・軍需産業の発展、重工業の形成などに着目して資本主義の確立過程を総合的に理解できたか。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> * 近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。 					<p>○寄生地主制の進展、ストライキの勃発や足尾鉍毒事件などに見られる社会運動の発生、それに対する大逆事件などの弾圧に着目できたか。</p> <p>また、出版・交通・通信などの面で生活様式が近代化した身近な例を見つけられたか。</p>
	<p>カ近代文化の発達</p>					
2	<ul style="list-style-type: none"> * 伝統的な文化のうえに欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって理解する。 					<p>○国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。</p>
	<p>第10章 近代日本とアジア</p>	1				
	<p>ア第一次世界大戦と日本</p>	2				
2	<ul style="list-style-type: none"> * 第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 					<p>○第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、第一次世界大戦を考察できたか。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> * 第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて理解する。 					<p>○大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者の増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の浸透による政党の役割と動向について考察できたか。</p>
	<p>ウワシントン体制</p>					
2	<ul style="list-style-type: none"> * ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 					<p>○ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> * 民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について理解する。 					<p>○社会主義運動・労働運動・農民運動・部落解放運動・女性の地位を高める運動など様々な社会運動に目を向け、普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できたか。</p>

	<p>エ市民文化</p> <p>2 * 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について理解する。</p> <p>[期末考査]〔ノート提出〕</p> <p>オ恐慌の時代</p> <p>2 * 戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。</p> <p>2 * 社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。</p> <p>カ軍部の台頭</p> <p>2 * 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。</p> <p>2 * 恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部の影響力が増大していく過程を考察する。</p> <p>キ第二次世界大戦</p> <p>2 * 日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。</p> <p>2 * 第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。</p> <p>第11章 占領下の日本</p> <p>ア占領と改革</p> <p>2 * 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。</p> <p>2 * 戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理</p>						<p>○学問・芸術・出版・マスメディアなどを具体的に取り上げ、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。</p> <p>○戦後恐慌・関東大震災・金融恐慌・金解禁・世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌などを取り上げ、国内の経済対策と経済の動揺について理解できたか。</p> <p>○無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、軍部が中心となって協調外交から山東出兵などの積極外交へと転換していく過程を考察できたか。</p> <p>○満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。</p> <p>○管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向の続出などを踏まえ、二・二六事件以降の大軍拡への過程を考察できたか。</p> <p>○中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格、戦時下の経済と国民生活・文化など、様々な角度から考察することができたか。</p> <p>○連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目できたか。</p> <p>○労働三法・教育基本法の制定などを取り上げ、五大改革をはじめとするGHQによる諸政策が、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気づかせたか。</p> <p>○女性参政権が認められ、政党政治が復活する中、主権在民・平和主義・基</p>
--	--	--	--	--	--	--	---

	解する。			○	○	本的人権の尊重の3原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。
	冷戦の開始と講和					
2	* 東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。			○	○	○中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に着目して、経済面では経済安定九原則・政治面では警察予備隊の新設に着目して、占領政策の転換について考察できたか。
2	* 連合国による日本の占領が終結したことと、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。			○	○	○サンフランシスコ平和条約の調印による日本の独立国としての主権回復の意義と安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を理解できたか。
	第12章 高度経済成長の時代	2				
	ア55年体制					
2	* 独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。			○	○	○保守合同による自由民主党の成立から安定した保守政権の誕生に至るまでを、外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察できたか。
2	* 冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。				○	○MSA協定・新安保条約・日ソ共同宣言・日韓基本条約・L T貿易などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握できたか。
	イ経済復興から高度成長へ					
2	* 朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。			○		○特需景気の影響、産業構造の高度化などを踏まえ、開放経済体制のもとの日本の動きを考察できたか。
2	* 消費革命による社会の変貌と経済成長がもたらしたひずみである社会問題について考察する。			○		○消費の拡大による豊かさの享受、核家族化、交通網の整備などによる都市化、マスメディアの発達などを取り上げる一方農村の過疎化や公害問題などの社会問題にも注目したか。
	第13章 激動する世界と日本	3				
	ア経済大国への道					
2	* 高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、国際情勢の変化を踏まえて行った国内の政治対策について考察する。			○		○ドル＝ショックや石油危機によるマイナス成長に対する政府の行財政改革について、身近な事例を取り上げ、考察できたか。
2	* 第二次石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。			○		○経済大国への道には、国民の努力によって築かれた豊かさ、ODAなどの社会貢献の重要性、貿易摩擦や円高への対応などがあつたことに着目できたか。
	イ冷戦終結と日本社会の動揺					
2	* 冷戦体制の終結とそれに関わる国					○冷戦終結後の東欧革命、55年体制

	2	<p>内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる</p> <p>* 科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。</p> <p>[学年末考査] [ノート提出]</p>		○				<p>が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。</p> <p>○原子力に対する安全性、国連平和維持活動への対応、経済不況に対する国内改革など、具体的な例をもとに理解することができたか。</p>
--	---	---	--	---	--	--	--	--

履修上の注意

- ◇ 授業では、板書やプリント等を併用しますので、ノートや綴じることのできるファイルを用意して下さい。
- ◇ 教科書の他、副教材として図説や資料集も使用しますので、忘れずに持ってきて下さい。
- ◇ 通常の系統的学習の他、「歴史の考察」や「主題を設定し追究する学習」などではレポートの提出や発表を行う場合がありますので、自分の視点や考察した考えをまとめて表現できるよう念頭に置いて学習して下さい。

評価方法について

- ◇ 平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断します。
- ◇ 授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とします。
- ◇ 課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とします。

令和2年度 倫理シラバス

科目	倫理	単位	2および3	学年	3	1・2・8組(2単位)	9・10組(3単位)
使用教科書	高等学校 改訂版 倫理(第一学習社)			副教材等	テオリア最新倫理資料集(第一学習社)		

学習の到達目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としてのあり方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用技能	d. 知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用し、学び方を身につける。	青年期における自己形成や人間としてのあり方生き方などに関わる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身につけている。

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
4	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 1-青年期とは何か 2-青年期の思考と感情 3-青年期の人間関係 4-青年期の自己形成	<ul style="list-style-type: none"> 人間の特質とは何かを理解する。 自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考える。 青年期の心身の特徴を把握するとともに、青年期の悩みの心理的特徴に気づき、悩むことが自己形成につながることを理解する。 高校生の意識調査の結果を分析し、そこに現れている現代の高校生の特徴を読み取る。 自分自身の心に起こる状態を防衛機制の図にあてはめて考え、粘り強く欲求を抑制し、調整しながら目標達成を図る必要性を理解する。 生きることの意味についていろいろな視点から考え、今後の自分の生き方に生かす知識として身につける。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
5	2章 人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1-哲学の形成 2-ソクラテス 3-プラトン 4-アリストテレス 5-ギリシャ思想の展開	<ul style="list-style-type: none"> ギリシャの思想家のものの見方・考え方を理解することにより、古代ギリシャの思想は、私たちににとってどのような意味を持つのかを考える。 ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察する。 「ソクラテスの言葉」から「よく生きるからこそ大切である」という彼の信念を読み取る。 アリストテレスの現実主義の立場を、プラトンのイデア論と対比しながら理解する。 ポリス中心の考え方に変わり、個人の内面的平安を求める思想が現れたことを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
6	②キリスト教 1-ユダヤ教の世界 2-イエス 3-キリスト教の発展	<ul style="list-style-type: none"> 世界で起こっている宗教を原因とする争いを調べ、宗教とは何かについて、意欲的に考察する。 哲学や宗教の意義を考え、先人の生き方を手がかりに、どのように生きていくべきかを学ぶ。 イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解する。 キリスト教信仰の構造に関心をもち、キリスト教的な生き方や人間観の特徴を、興味を持って探究する。 キリスト教が愛の宗教であるといわれるのはなぜかを多面的・多角的に考察する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	③イスラーム	<ul style="list-style-type: none"> イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解する。 メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感する。 『クルアーン』を読み、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
6	④仏教 1ーインドの思想文化 2ーゴータマの教説 3ー仏教思想の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・インドの人々はあるどのような死生観を持っているかを理解する。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解する。 ・日本に最もなじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察する。 ・「ゴータマの言葉」を味わい、仏教の基本である、人間どうしが支え合いながら生きていくという視点を読み取る。 ・ゴータマが説いた縁起や四諦とは何かを理解する。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7	⑤中国の思想 1ー中国の思想文化 2ー儒家の思想 3ー道家の思想	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の人々の自然観・人生観を理解する。 ・陰陽五行や風水など、身近なものにも中国の思想との関わりがあることを知り、中国の思想に対する興味・関心を高める。 ・中国の思想は、歴史的に日本に最も大きな影響を与えたものであることを知り、私たちの現在や未来にどのような関わっているのかを考察する。 ・『論語』の中の孔子の言葉から、中国の思想の根本を読み取る。 ・西洋と東洋の源流にある思想を比較して、人間の生き方について説いている内容の共通点と相違点を調べ、発表や討論をする。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
9	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神的特性が、日本の風土とどのように関連しているのかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識を持っていたのかを理解する。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	②外来思想の受容 1ー日本仏教の展開 2ー日本儒学の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の思想や文化に大きな影響を与えている仏教や儒教が日本にどのように伝えられ、どのように変容していったのか、その大きな流れを把握する。 ・法然、親鸞、一遍、栄西、道元、日蓮に関する資料を収集し、鎌倉仏教の各宗派の教義や特色を理解する。 ・日本人の価値意識と儒教との関連について理解し、正の部分、負の部分をとともに検討する。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	③町人意識のめざめと庶民思想 1ー義理と人情 2ー国学の成立 3ー庶民の思想 4ー伝統思想の成熟	<ul style="list-style-type: none"> ・義理と人情、倹約と正直、勤労の倫理など、現代に流れる思想に対する興味・関心を高め、日本人の庶民思想や勤労倫理の特質はどこにあるのかに気づく。 ・国学の思想と私たちの考え方で、共通するところ、異なるところ、共感するところなどを発表する。 ・義理と人情の観念、国学が提唱した人間尊重の思想、現代に流れる庶民思想は、どういうものかを理解する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
10	④西洋思想との出会い 1ー幕末の思想 2ー明治の啓蒙思想 3ー日本社会とキリスト教 4ー近代的自我の確立 5ー社会思想の展開 6ー近代日本の思想課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幕末の思想の特質や、文明開化が日本の伝統社会にどのような変化をもたらしたかを把握する。 ・日本の近代思想がどのように展開していったかを理解する。 ・日本人のものの見方・考え方の中で、西洋思想の受容によって形成されたと考えられるものについて資料を収集し、国際社会に生きる日本人としての生き方・考え方をまとめる。 ・日本思想のまとめとして、国際社会に生きる日本人として、これからの自分の生き方やあり方について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	4章 現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 1ールネサンスと宗教改革 2ー人間性の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。 		○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
11	②近代の科学革命と自然観 1-近代の科学革命 2-経験論と合理論 3-近代科学と社会の進歩	<ul style="list-style-type: none"> 近代の科学はどのような背景から生まれてきたのかを理解する。 ベーコンやデカルトによる科学的な考え方の特色を理解し、科学技術の発達と自然との共生についての興味・関心を高める。 ベーコンやデカルトの著作を読み、自然は人間の手によって操作できるとする新しい自然観をつかむ。 経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	③自由で平等な社会の実現 1-社会契約の思想 2-人格の尊厳と自由—カント 3-人倫と自由の実現—ヘーゲル 4-功利主義の思想	<ul style="list-style-type: none"> 近代ヨーロッパの社会契約説を通して、民主社会の成り立ちを理解し、民主社会を実現した社会契約の思想について、多面的・多角的に考察する。 ホブズ、ロック、ルソーに関する資料を収集し、社会契約の思想の違いを整理する。 現在の政治的自由は、ヨーロッパ近代の市民革命を基礎づけた思想家たちの考えに基づくことを理解する。 カントやヘーゲルの思索の内容を整理して理解する。 西洋近代の思想家たちは、自由の実現についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察する。 ベンサムやミルの幸福に対する考え方の違いを理解する。 功利主義の思想からよく生きるとはどういうことかを理解し、自分自身の生き方につなげる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
12	④人間性の回復と主体性の確立 1-社会主義の思想 2-実存主義の思想 3-プラグマティズムの思想	<ul style="list-style-type: none"> 社会主義の生まれた背景とその発展過程、現代の社会主義について考察する。 実存主義が追究した生き方とはどのようなものかを理解する。 主体的なあり方は、努力を伴う生き方であることを、実存主義の思想から考察する。 略伝や図版を活用して、思想家の人生をたどりながら思想内容を理解する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	⑤現代の思想と人間像 1-心の深層と無意識 2-生の哲学と現象学 3-近代的理性と言語 4-正義と社会 5-他者と偏見	<ul style="list-style-type: none"> 前節までの学習を踏まえ、現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察する。 フロイトやレヴィン・ストロースらの著作を読み、現代の思想が発見したり注目したりしてきたものは何かを理解する。 ロールズ、センらの思想から、私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげる。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
1 2 月	⑥生命への畏敬と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 実践された倫理を貫いた人々の生き方に対する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものかを理解する。 さまざまな思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 思想家の言葉から、自らの思想をそのままに生き、一生そのようにし続けた生き方をつかむ。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	5章 現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題 1-生殖医療と遺伝子操作 2-脳死臓器移植と再生医療 3-自己決定の尊重と末期医療	<ul style="list-style-type: none"> クローン技術、遺伝子組換え、脳死臓器移植、安楽死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察する。 生命をめぐる問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査
	②環境の問題と倫理課題 1-有限な地球環境 2-生物多様性と自然との共生 3-予防原則と世代間倫理	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模だけでなく、身近なところで起こっている環境問題について調べ、有限な資源を未来の世代にも配分するには何をすればよいか、環境倫理の考え方はどのようなものか、などについて考察する。 地球環境問題、環境保護活動、循環型社会をめざす取り組み、将来の世代に対する責任などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 ノート提出 レポート作成 発表 定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1 2 月	③家族・地域社会と倫理課題 1ー少子化と男女共同参画社会 2ー高齢化と地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会の問題点を、家族の形態や地域社会はどのように変化してきたか、それらに期待される役割とはどういったものか、などについて考察する。 ・核家族化や少子化の進行に伴う家族関係の変容、男女共同参画時代の夫婦のあり方、高齢者と地域社会のあり方などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・家族・地域社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	④情報社会と倫理課題 1ー情報の洪水と情報リテラシー 2ーネットワーク社会と情報モラル	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会を生きていくために必要な能力、情報モラルに関する問題などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・高度情報化やネットワーク社会をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	⑤宗教・文化と倫理課題 1ー宗教信仰への理解と現代世界 2ー異文化理解と多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化を理解するためには、社会全体でどのような取り組みが必要かを考察する。 ・多様な外国人と交流する際の倫理的課題は何か、などのテーマから探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・グローバル化が進む現代において、異文化を理解するにあたり問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査
	⑥国際平和と人類の福祉 1ー地球市民として 2ー平和な世界に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・各国間の経済格差の解消、自立を支援するための援助、難民や女性・子どもの人権保障、核兵器の廃絶など、人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ、地球市民としての生き方を探究する。 ・頻発する地域紛争や民族紛争、難民問題、戦争と核兵器の廃絶の問題、などのテーマから、探究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・探究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査